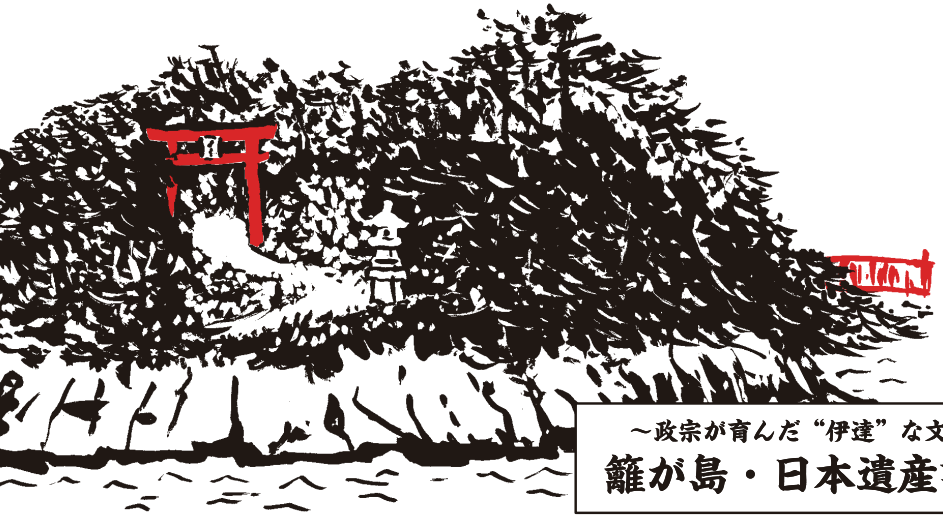
おくのほそ道の風景

籬島

籬神社奉賛会



～政宗が育んだ“伊達”な文化～

籬が島・日本遺産認定

籬神社神事のご案内

・月次祭　毎月　１日　午前１１時

但し　１月は６日午前１１時

・前夜祭　７月３１日　午後３時

・本祭　８月　１日　午後１時

いずれも、島内籬神社にて執り行います。
どなたでも参拝できます。

通常、橋の扉は施錠していますが、毎月１日と土曜日曜祝日は、午前１０時解錠、午後４時施錠しています。

籬が島 HP

政宗が育んだ伊達な文化
構成文化財 32「籬が島」

鹽竈神社 HP
曲木神社の御由緒

わがせこを　都にやりてしほがまの
　まかきか島の　まつぞ恋しき
（古今和歌集　東歌）

あけくれば　籬の島をながめつつ
　都恋しき　昔のみぞなく
（新勅撰集　源信明朝臣）

籬島は、「おくのほそ道の風景地」「日本遺産」指定の名勝で、曲木島とも称し、鹽竈神社築造の際、「曲木を巧みに用いた」籬明神を祀る小祠が島名の由来といわれています。この島を詠んだ歌も数多く残されています。

また、みちのくを巡り、元禄二年五月八日塩竈に泊まった松尾芭蕉は、翌日鹽竈神社を参拝したのち、舟にて籬島の景観を眺めて松島へ向かいます。「籬が島」について、「五月雨の空いささか晴れて、夕月夜かすかに、籬が島もほど近し」と記しています。

この島に祀られるのが鹽竈神社十四末社の一つ曲木（籬島明神）神社である。

塩社（塩竈様）の表玄関にあたり、海の守り、塩社の海の瑞垣とも申すべき存在であったろうか。

塩釜の浦は、平安の昔、詩情の赴くまま歌枕として詠まれた。曲木神社と唱えるように籬は曲木と言った。というのは太古この島を杜松の老木が覆っていた。この木、一木ながら三つに曲がりくねって、その形は三つの島に見えたといい、曲木はここよりきたと語るのは市内吉津在住の小野初司朗氏である。

さらに氏のいうには、古今塩釜の浦辺では、塩土翁神により諸所で製塩がはじまり、人々が集まって浦は平和に集落が出来た。そこへ害鳥が現れた。この鳥北方は盛岡方面の蝦夷地より飛来した、食料を次から次と襲っては消えた。このとき、塩社祖神の塩竈様、離島に龍り、矢を射ったところ、怪鳥の眼にささり、怪鳥は暫し湾内をくるくる廻った末、桂島に落ちた。（怪鳥の名はウトウ?とも）。桂島の神は、この矢を抜き取り替わりに自分の矢をさしておいたから、塩竈様から出入を差し止められたという。

この二神姉弟の神とも言われ、ともに海路東北開拓に当地に来られたが、行手の山に危険を感じたか（上陸）弟神のみが先行することになり、姉神は途中の島にふみとどまったと、一連の伝承を聞かせてくれた。桂島の人々が、塩竈様にお参りしたとき、破魔矢を受け申さぬ習俗があるとは、籬島を取り巻く、こうした俗説に起因したものであろうか。さて、曲木のこと松島町誌は籬は曲木であってとし、この島に曲がった木ばかりで造った社があり、曲木のお宮と呼んでいたのを後の文人が都風に籬の字を当てた。

また、別の伝説として、塩竈様がこの島を訪れたとき、そこの人達が穴居生活で不潔な暮らしをしていたので、家を建てる術を教えた。人々は曲り木を組み合わせて住んだので「曲木神」の称号を授け曲木島となったと書かれている。

（志波彦神社鹽竈神社HP「曲木神社の御由緒」より
http://www.shiogamajinja.jp/about/magaki.html

昭和38年、漁港建設のためこの島を含む対岸一帯が国の特別名勝区域から除外されましたが、歴史的な背景を持つ島として、昭和41年9月5日、市の名勝として指定されました。